

月亡らさぎの

徒桙けんしん

Story by Tadano Kenshin

Illustration 魔太郎

本編抜粋試し読み
* 突撃!朔の朝風呂編 *

フ
オ
ー
ク
ロ
ア
。

St.1

月のない夜、
あるいは
悩めるうさぎ。

「やっぱり朝風呂あさぶろは最高だな」

伊岐朔いさきさくは朝風呂が大好きだ。

慌あわただしい朝。朝風呂には、その貴重な時間を割さく価値が十二分にあると思っている。

もちろん急いでいても、さっと早風呂で済ませたりしない。

気の済むまで堪能した後、浴槽を出てゆっくり洗い場へと移動するのが朔の日課だ。

頭からお湯をかぶり、シャンプーのボトルに手を伸ばす。

そこで初めてシャンプーが空になっていることに気づいた。

「最後に使った奴だれだよー。補充しとけよう」
目を閉じたまま、不満げに独り言をつぶやいたそのとき。

「はい、これ」
手にずっしりとした重み。

新品のシャンプーボトルが手渡された。

「お、ありがと。お湯だけじゃさっぱりしないからなー！」
朔は新品のシャンプーで髪を泡立てる。
はて？

頭を洗い始めて、朔は急に違和感を覚えた。
確か風呂場には自分しかいなかったはず。
嫌な予感がした。

思い切ってお湯をかぶると、朔は目をこすって慌てて後ろを振り返る。

するとそこには幼馴染おさななじみの少女・稲羽白いなばしろがいた。

白は豊かな双丘そうきゅうを隠すこともなく、ただ仁王立におうだちして朔を見下ろしていた。

「っ！」

朔は慌てて目をそらした。

「いつ、いつのまに！ はいってきたの！ ていうか、なんでなんで？ なにしてるの？」

「お風呂、はいろうと思って」

白は平然と返事をする。

「そうじゃなくて！」



「昔からよく一緒にお風呂はいつてる。特別なことも、おかしなこともない」

「昔からじゃなくて、昔の話だよね！」

今は朔も白も高校二年生だ。昔とは違う。特に胸が。腰の回りが。

朔だって男だ。可愛かわいいい女の子が全裸でそばにいたら、下半身がまずいことになる。

だが、白には朔の焦あせりは伝わらない。白はおもむろにスポンジを手にとると、「背中、流したげる」

朔の返事を待たず、持っていたスポンジで朔の背中を洗い始めた。

力加減が絶妙だ。背中のかゆかったところがいい塩梅あんばいで撫なでられる。

気持ちがいい。

「じゃ、なくてー！ 白ー！ そんなことしなくていいから！ はやく出てってよ！」

でないと、朔の下半身が大変なことになってしまう。というか、すでにだいぶなっている。

「なんで？」

「なんでも！」

股間こかんがやばいからなどとは言えない。

「むう。朔はわがまま」

不満げに頬ほおをふくらませ、白は渋々しづしづといった様子で浴

場から出て行った。

バトル。いい話。そして、白が可愛い。

本編もよろしくお願いします。



月とうさぎの

徒塾けんしん
Story by Tadano Kenshin
Illustration 魔太郎

フォークロア。

St.1

月のない夜、
あるいは
悩めるうさぎ。

GA文庫

●月とうさぎのフォークロア。

St.1 月のない夜、あるいは悩めるうさぎ。

●著：徒塾けんしん ●イラスト：魔太郎

●本体価格 600 円 (税込 648 円)

●2016 年 12 月 15 日発売